

重要文化財大安寺本堂ほか7棟 保存修理事業の経過報告

鐘樓の解体工事がはじまりました

令和3年度の工事は、鐘樓の解体工事から始まりました。

鐘樓は建物を一旦取り解いて組み立て直す“解体修理”となります。建物の解体だけでなく、基礎の石積み部分にもズレやひびが見られるため、今後解体して積み直しを行います。



まずは釣鐘が下ろされました。バランスを見ながら少しずつ手作業で下ろします。鐘を下ろすのは寛文3年(1663)に建築されて以降初めての作業です。約350年のあいだ800kgもの釣鐘を吊り下げていた金具は、かなり傷んでいました。

鐘樓も素屋根で覆われました

本堂、山門と同じように鐘樓も素屋根で覆います。

素屋根とは、主として修理中の建物を保護する為にその上部を覆い屋として架けられる仮設の建物のことです。

外側には大きな柱などを運び出すためのスロープ、中には作業用のスペースも設けられています。



屋根から順に解体が進みました

これまでと同じように、鐘楼も瓦葺屋根の解体から進められます。瓦を取り外し、上から順に柱まですべて解体していきます。大きな材料は数人がかりで持ち上げ、運び出しました。

これらの木材も番号が振り当てられた木札が貼られ、大切に保管されます。そして傷んでいるところを繕い、再び組み立てなおします。

現在、建物の部分はすべて解体され、笏谷石の基礎部分が残るのみとなっています。



今後の工事予定

鐘楼は今後、笏谷石の基礎部分を解体していく予定です。解体の前には発掘調査を行い、これにより建築当時の鐘楼の姿がさらに明らかになることが期待されます。

“半解体修理”となっている本堂も、壁や床板などの解体工事が順調に進められていますが、今後は屋根に残っている骨組部分も解体されていくことになっています。

設計監理：公益財団法人文化財建造物保存技術協会（東京都荒川区）

工事請負：松浦建設株式会社（石川県能美市）